

令和 7 年度 (2025 年度) 事業報告

自 令和 7 年 (2025 年) 4 月 1 日
至 令和 8 年 (2026 年) 3 月 3 1 日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会の目的達成のため、コンプライアンスの徹底、安全と安心、公平で平等な利用の確保を基本として、みどり豊かで潤いのある持続可能な都市づくりの推進、健全な地域社会の形成、生活文化・福祉の向上に努めました。

令和7年度は国際情勢からの原油高による物価や電気料金の上昇、特に人件費や委託業務価格の高騰に伴い、公園の管理経費が引き続き圧迫された年度となりました。

公益目的事業の1 都市緑化基金等事業では、長引く低金利での運用の下、基金の果実だけではなく、収益事業からの繰入れにより苗木の配付やツタ苗の補助などの民有地緑化事業を実施したほか、絵画コンクール、フォトコンテスト、園芸に関する解説書の発行などを通して、緑化推進の普及啓発に努めました。また、ボランティア養成講座を開講し都市緑化のサポーターの養成を図るとともに、花や緑に関わる市民参加の促進や活動主体間のネットワーク化を目的に、さっぽろ花と緑のネットワーク事務局を設置・運営して、会員間の交流の促進や活動を支援しました。

公益目的事業の2 指定管理等公園施設事業では、指定管理計画及び札幌市との協議等に基づき、確実に事業を実施しました。公園施設の維持管理面では、巡視・巡回、点検・修繕、衛生や美観保持のための清掃を行い、安全と快適性の確保に努めました。また、特定外来生物への対応、美しい芝生の維持や季節感のある花壇、健全な樹林づくりを行い、良好な景観形成と潤いのあるオープンスペースの創出に努めました。管理運営面では、公園内の開花状況やイベント情報の提供、安全と快適性確保のための利用指導や調整、各公園施設の特性を活かした利用プログラムを展開しました。市民参加・協働等においては、登録ボランティアによる様々な活動、地域や他団体と多様な連携協力を行い、事業のあらゆる面で満足度の高い運営に留意しました。

収益事業の内、国営公園等受託事業では、国営滝野すずらん丘陵公園の運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設を適正に管理しました。また、厚別公園の緑地・芝生の維持管理に係る業務を実施しました。

公園施設等附帯収益事業では、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供を行い、お客様サービスの向上に努めました。

法人運営全体としては、職員の採用及び有期雇用契約者の採用についても優秀な人材の確保に努め、公園施設の管理に必要な資格取得の推進や各種研修を実施しました。特に年度当初には安全衛生、作業機械類の取り扱いの研修や消防訓練・救命講習を積み重ねて総合的な危機対応力を高め、事故発生の防止への取り組み、人材育成と管理の強化に意を用いました。

また、業務の効率化・経費の縮減を図るとともに、労働環境の整備、職員の働き方の改善に努めました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和 8 年 3 月 31 日現在

区 分		昭和 59 年度～ 令和 6 年度	令和 7 年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		515,254,294	0	515,254,294
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	228,079,350	0	228,079,350
協会への寄付金		32,310,594	396,512	32,707,106
	個 人	1,420,286	5,000	1,425,286
	募金箱	5,297,585	241,512	5,539,097
	企業・団体	15,312,723	150,000	15,462,723
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
合 計		550,564,888	396,512	550,961,400
基金取崩		△ 10,000,000	△ 10,000,000	△ 20,000,000
総 計		540,564,888	△ 9,603,488	530,961,400

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木の配付

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際して姫ライラックやアナベルのほか、北海道日本花の会・中道リース株式会社様から寄贈のエゾヤマザクラ等、12 樹種の苗木を合計 803 本配付した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市内の家庭及び事業所等に合計 6 件 38 株（補助は半数）のナツヅタの苗を配付した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選 2025

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ 2 点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

■応募総数：113 人 462 点

(2) 第 59 回「緑の絵」コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象に緑をテーマとした絵画コンクールを実施し、入賞作品 47 点、最優秀学校賞 2 校を選考した。

■参加学校数：54 校 応募総数：500 点

■表彰式：令和 7 年 12 月 13 日 さっぽろテレビ塔ホール

■入賞作品展：令和 7 年 12 月 12 日～12 月 15 日 札幌駅前地下歩行空間 北大通交差点広場

(3) 講習会「ビカクシダとチランジアの板付け講習会」

身近な緑を増やす一助となるよう、インテリアグリーンとして人気の観葉植物の板付け講習会を行った。

■日程：令和 7 年 10 月 31 日 受講者：28 人

(4) さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2026

札幌市内における花と緑のまちづくり活動が一層活発に展開されることを目的として、著名な講師を招いた講演会を開催した。

■講師：ガーデンデザイナー・佐藤 未季氏

■内容：第 1 部／ゆる庭生活のはじめ方～公園やコミュニティガーデンにでかけよう～
第 2 部／ゆるガーデンデザイン～宿根草を使った小さな庭のデザイン入門～

■日程：令和 8 年 3 月 15 日 札幌ガーデンパレス 参加数：201 人

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術を解説した冊子を 3,000 冊作成し、各区役所や公園等で配布した。

タイトル：すくすくみどり No.34 「夏のガーデニング トラブル解決 book！」

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識、技術を講義と実習で学ぶ連続講座を開講した。

期間：令和 7 年 4 月 5 日～11 月 8 日

内容：講義と実習を組み合わせた全 17 回のカリキュラム 受講者：20 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを3年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

貸出数：1団体 25基(花苗125株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人に対して活動の支援や相互交流を図ることを目的に「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」を設置、運営し、花と緑のまちづくり活動に役立つ体験実習・講習の開催や情報の発信、交流会等を開催した。

① 登録数・・・花と緑のボランティア団体 36団体、
さっぽろタウンガーデナー(個人) 284人 (令和8年3月31日現在)

② 情報発信・広報活動

会報誌の発行(4回)、専用ホームページの運営・更新、ソーシャルネットワークサービス(SNS)の活用や、YouTubeチャンネルを活用した登録団体の紹介動画を製作し配信した。

③ まちづくり体験実習の運営

花と緑のまちづくり活動の促進につなげることを目的に植栽や植物のメンテナンス、種まき・育苗等の体験実習を実施した。

内容	日程	参加人数	備考
体験実習 札幌駅前通ストリートガーデン(全6回)	令和7年6月～10月	延べ196人	
体験実習 マイタウン・マイフラワープラン(全4回)	令和7年4月～7月	延べ37人	小学生参加158人
体験実習 大通公園2丁目花壇(全3回)	令和7年6月～7月	延べ49人	小学生参加146人

④ 技術指導講師の派遣

活動の技術的支援のため、登録者・登録団体が主催する講習会に講師を派遣した。

実施回数：11回 延べ参加人数：143人

⑤ 講習会・交流会の実施

登録者・登録団体を主な対象として、講習会や参加者同士で意見や情報交換などができる交流会を開催し、知識や意欲の向上、新たな出会いと学びの機会を創出した。

内容	日程	参加人数	備考
講習・交流 押し花づくり隊(全2回)	令和7年5月～9月	延べ12人	
講習会 土づくり講習会	令和7年9月25日	22人	
交流 タネ・苗交換会	令和7年10月1日	51人	
講習・交流 花と緑のネットワーク交流会	令和7年11月15日	58人	
講習・交流 ミニ交流会	令和8年2月26日	17人	
講習会 はじめての宿根草講習会	令和8年2月28日	35人	

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的にホームページ上で公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、「ガーデンアイランド北海道2025」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して、施設の状況を発信した。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

EMS（環境マネジメントシステム）に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除を実施した。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」を開催した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会、子ども向けのかげっこ教室など、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外遊びに関する取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。また、スポーツジム MUSO では任意団体「North Sprint Dept.」との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブを運営した。このほか、農試公園では、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働で季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、歴史的・文化的財産の共有、「街なかの緑のオアシス」として質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

大通公園・創成川公園で開催している大規模イベントを目的に利用者が連日訪れるため、来園者数は増加傾向であった。また、外国人観光客も年中を通し来園しており、夏まつりやオータムフェスト、雪まつり時には各所で異言語が聞かれた。

予定していた自主事業イベントにおいては利用者層に合わせた催しを提供することで予想以上の集客を得た。市民や観光利用者のために、園内の開花情報等の写真をホームページで適時発信した。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター&オフィシャルショップ」を運営し、販売商品を精査し、観光客等のニーズに応えられる商品を提供することで収益増に取り組んだ。また、新商品の販売を企画、商品化し、販売商品の刷新を図った。

「カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営は、常設で大通公園西3丁目、西4丁目（雨天中止）で行い、大規模イベント時には西6丁目、西7丁目にとうきびワゴン臨時売店を設け、利益の向上と利用者の利便性を図ったことと、外国人観光客の来園者が増加したことで販売数も増加したが、雪まつり時の販売を中止したため、結果、前年度売り上げとほぼ同額にとどまった。

ホームページでは、タイムリーな開花情報のほか、イベント情報やボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園活動への参加意欲向上につなげることができた。

(2) 体験型利用の促進

大通公園・創成川公園での大規模イベントは全て開催となったほか、創成川公園では新規で「焼き鳥テラス」、「ブラックニッカ」、「沖縄フェス」が開催された。また、自主事業として計画していた以下の参加・体験型イベントは予定通り開催し、来園者へのサービス提供事業として移動販売車を西2、西9丁目に出店した。

■利用促進による自主事業イベントの実施一覧

大通公園			創成川公園		
名 称	日 数	参加者数	名 称	日 数	参加者数
大通公園ガイドツアー	4 日	延べ 53 人	まるわかりガイドツアー	1 日	39 人
バラフェスタ	2 日	約 1,000 人	ライラックの写真募集	募集 31 日	76 人
バラカフェ（1 台）	2 日	約 110 人	ライラックの投稿写真展	展示 13 日	延べ 130 人
バラの写真展	展示 13 日	延べ 140 人	ライラックガイドツアー	1 日	43 人
夏休みこどもボランティア体験 （バラの花がら摘み）	4 日	延べ 7 人	夏休みこどもボランティア体験 （彫刻清掃体験）	1 日	5 人
西 2 丁目移動販売車	172 日	約 3,400 人	ヘメロカリスガイドツアー	1 日	10 人
西 9 丁目移動販売車	8 日	約 250 人	秋の公園とハギの花ガイドツアー	1 日	20 人
大通公園であそぶか〜い	1 日	約 500 人	創成川ハロウィン	1 日	約 750 人
			創成川公園まちの灯り	1 日	約 200 人

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対しては、用具の提供や技術指導などの活動支援を行い、市民協働の推進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援

両公園の登録ボランティアについては、各自で体調管理等を行ってもらい、参加したボランティアにてほぼ予定通りに活動を行った。花壇造成における花植えに関しては経験豊富なボランティア参加者が多く、花植えのレベルも向上しているため、経験の浅い参加者へ指導する姿も多く見られた。

ガイドボランティアについても市民や観光客との対面対応にて、通常のガイド活動を行った。また、ガイド活動の他に、ボランティア研修やガイド時に必要となる園内樹名板の取り付け、小学校の社会学習時のガイドボランティア活動を行った。

企業・団体の清掃ボランティア活動に対しては日程調整、用具等の貸出品の確認、回収ごみの処理等の打合せを行い、サポートしている。新規に申請する団体も増えており、適時対応している。

ボランティア活動では自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要用品類の支給等で、活動の活性化やモチベーションの向上を図った。冬期間の室内活動は、翌春に掲示する樹名板の制作や、冬季屋外イベントで使用する管理用品の制作に携わってもらっている。

■ボランティア活動一覧（4月～12月）

公園名	団体名	活動日数	参加者数	活動内容
大通公園	バラ花壇管理ボランティア	50 日	延べ 859 人	西 12 丁目バラ花壇の維持管理
	花壇維持管理ボランティア	25 日	延べ 210 人	大通公園の花壇維持管理活動
	NPO 法人シーズネット	20 日	延べ 228 人	大通公園の花壇維持管理活動
	花壇花植えボランティア	4 日	延べ 233 人	春・夏花壇の花苗等植え込み
	ガイドボランティア	155 日	延べ 350 人	ガイド・研修・樹名板取付作業
創成川公園	植物ボランティア	31 日	延べ 201 人	ライラック等の植物維持管理
	お助け隊	32 日	延べ 209 人	清掃、除草などの公園維持管理
	花くらぶ	24 日	延べ 92 人	コンテナ花壇の維持管理
	除草ボランティア	19 日	延べ 58 人	除草のみの公園維持管理
	彫刻清掃ボランティア	5 日	延べ 61 人	「安田侃」の彫刻清掃活動

■ボランティア活動一覧（1月～3月）

公園名	団体名	活動日数	参加者数	活動内容
大通公園	バラ花壇ボランティア	6 日	延べ 42 人	バラのポプリエッグ作製
	ガイドボランティア	1 日	9 人	樹名板作成
創成川公園	お助け隊	1 日	7 人	イベント「まちの灯り」運営補助

(2) 教育機関との協働

例年行っている近隣小学校との連携事業で、児童 75 名による花壇への花苗植込み体験を実施した。また、社会学習にて「大通公園の魅力を伝える」というテーマで生徒 1 人 1 人が作成したポスター 75 枚を自主事業イベントにて掲示し、小学生の情操教育を担う場所として提供した。

■教育機関との協働イベント一覧

大通公園	創成川公園
札幌市立資生館小学校 3 年生 75 名の花苗植込み体験	—
札幌市立資生館小学校 3 年生作成ポスター 75 枚の掲示	—

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

(1) 市民にわかりやすい情報提供

当公園・緑地の公式ウェブサイトや中島公園公式 Instagram などを活用し、年間を通じた景観の魅力やタイムリーな公園情報を発信することで公園をPRし、新規の公園利用者誘致、リピーターの再訪を促した。

公園で作成している園内樹木マップを継続配布するとともに、札幌グリーンライオンズクラブの協力で樹名板を設置するなど、園内散策のアイテムによるサービス向上と利用促進を図った。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力向上

都心部における貴重な水景である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけるよう、サクラやフジ、アジサイといった季節を彩る花木類の管理に特に配慮した。また、「都会の野鳥観察会」や「鴨々川いきもの観察会」といったイベントを開催し、自然と触れ合うことができる企画を提供することで公園の魅力アップにつなげた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「札幌まつり」「ゆきあかり in 中島公園」はコロナ禍前と比較し、規模を縮小した形での開催となっているが、コロナ禍以降開催を見合わせていた「さっぽろ園芸市」が再開した。これらの情報は中島公園地域コミュニティ推進協議会にて公園内外の歴史・文化・スポーツ施設などの関係団体と情報共有し、相互の協力・支援体制を整えるとともに、公園内の治安・安全性の向上に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地（上流地区）	
イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①中島 kids ガーデン 2025 (12 回)	延べ90名	①パークゴルフ交流大会	27 名
②かもくま祭×あそびのフェスティバル	147名	②ラストコールパークゴルフ大会	93 名
③鴨々川いきもの観察会 (2 回)	延べ40名		
④エシカルマルシェ (8 回)	延べ732名		
⑤灯籠流し	150名		
⑥あおぞらピクニックシアター in 中島公園	800名		
⑦Engacho!Public!MiracleHeaven!2025	120名		
⑧日本庭園茶会 (2 回)	41名		
⑨インクルーシブ文化祭「まぜこぜフェスティバル 2025」	120 名		
⑩さっぽろ焼き芋テラス 2025	65,000名		
⑪紅葉ライトアップ	213,000名		
⑫ハンドメイド講習会 (3 回)	11名		
⑬都会の野鳥観察会	20名		
⑭ゆきあかり in 中島公園	1,000名		
⑮スノーシューレンタル	83名		

2 市民参加・協働等

地域との連携を図るため、中島公園地域コミュニティ推進協議会の構成員に対してイベント開催等の情報共有を図った。7 月には中島児童会館が開催する地域の交流と活性化を目的としたイベント「かもくま祭」の開催に協力した。冬季最大のイベントである「ゆきあかり in 中島公園」は規模を縮小して開催した。

豊平川緑地パークゴルフ場（南7条コース・南大橋コース）では、運営業務を中央区パークゴルフ協会に業務委託し、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

（1）ボランティア活動の支援・協働

中島公園内のバラ花壇や宿根草花壇、花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、雑草の繁茂が目立つ箇所の土壌改良や除草作業を実施した後、花苗等を植栽し、公園花壇の質の向上を図った。

（2）近隣教育機関との連携

公園近隣の中島中学校の職場体験や総合的な学習の時間への協力を行った。

（3）市民活動・地域連携による相互の充実

ボランティア団体等への事務連絡は過年度に続き電子メールにて行ったほか、コロナ禍以降、対面での開催を見送ってきた中島公園地域コミュニティ推進協議会を6月、9月、2月の3回開催した。「ゆきあかり in 中島公園」については会合を設けず、電子メールでの意見集約・報告とした。

このほか、中島公園内にある札幌市豊平館、北海道立文学館の運営協議会に公園職員が委員として参加し、意見交換を行った。

■ボランティアによる活動一覧

団体名・活動名	活動日数	参加者数	活動内容
フローレスの会	46 日	延べ 435 名	公園内花壇（バラ・宿根草等）の管理
鴨々川清掃活動	1 日	100 名	公園内を流れる河川の清掃活動
中島公園彫刻清掃活動	1 日	10 名	公園内彫刻の解説と清掃活動

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場（南7条コース、南大橋コース）は4月26日、南22条野球場は5月24日より開放した。コロナ禍前の令和元年度実績と比較し、パークゴルフ場は約61%、野球場は約79%の実績となっており、年々減少傾向にある。

利用料金収入合計 6,884,494 円（豊平川緑地パークゴルフ場、南22条野球場）

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ネイチャークラフト工作」をこども夏まつり内で開催した。また、「ナチュラルリースづくり」を企画していたが、ヒグマ出没に係る公園閉鎖に伴い開催中止となった。

近隣地域の子どもを主な対象とした「円山公園こども夏まつり」や、札幌の就農者の販路拡大やさっぽろの農業を市民に PR することを目的とした「円山公園マルシェ」、冬季には「スノーマウンテン造成及びチューブそり貸出」「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！」「まるやまスノーラフティングチューブ」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして「かけっこ教室」「青空ヨガ教室」を複数回開催し、大変好評を得た。

円山公園の豊かな自然環境をテーマとしたガイドツアーとして「円山公園探訪ツアー」を開催し、好評を得た。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
ちょこっとプレーパーク in 円山公園(27 回)	延べ1,914人	ナチュラルリースづくり (ヒグマに係る公園閉鎖のため中止)	-
かけっこ教室(2 回)	延べ25人	円山公園探訪ツアー	20 人
円山公園マルシェ(25 回)	延べ5200人	まるやまスノーラフティングチューブ(7 回)	延べ191 人
青空ヨガ教室(10 回)	延べ37人	スノーマウンテン造成及びチューブそり貸出	-
ネイチャークラフト講習会(4 回)	延べ23人	冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！	-
円山公園こども夏まつり	延べ375人		

2 市民参加・協働等

在来植物の保護と外来植物の対策として、北海道自然保護協会と連携し、外来植物除去活動を継続して実施しており、ゴボウ 24.5kg、イワミツバ 276.9kg、オオハングンソウ 6.5kg、アメリカオニアザミ 6.8kg、ガーリックマスタード 1.4kg を除去した。

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、「ちょこっとプレーパーク in 円山公園」を開催し、子どもが自由に、のびのびと外遊びできる場を提供した。

花壇管理ボランティアの方々とともに、神宮下園地の花壇の維持管理として、チューリップ球根の掘り取り・植え込み、コスモスの播種・抜き取り、花苗の植え込み・掘り取り、除草作業等を定期的に実施した。

近隣の円山小学校及び大倉山小学校の総合的な学習の時間への協力を行った。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	活動日数	活動内容
一般社団法人北海道自然保護協会	12 日	外来植物（ゴボウ、イワミツバ、オオハングンソウ等）の除去活動
さっぽろ冒険遊びの会	27 日	プレーパーク事業の運営
花壇管理ボランティア	15 日	神宮下園地の花壇の維持管理

3 利用料金収入

有料施設は花見期間終了後、順次開放準備を進め、5 月中旬より開放した。適時、必要な維持管理作業を実施し、良好な施設環境の維持に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 764,810 円（坂下野球場、自由広場）

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

公園内において、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

緑のセンター他での植物展示会、園芸講習会等に中止はなく、リリートレイン、世界の庭園も通常通りに営業した。なお、緑のセンター等での植物展示会は 21 回、講習会は 27 回開催した。事業の開催は、広報専任担当者を配置して的確な情報発信を行い集客につなげた。この他、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリング及びスタンプラリーを各 4 回開催したほか、ガイドボランティアが 5～10 月に園内見どころのガイドで 23 回活動した。プレーパークは、5 回開催した。

■自主事業による展示会・講習会・イベント観覧・参加者数（4 月～3 月）

（1）展示会・講習会	延べ 93,010 人
（2）オリエンテーリング	延べ 339 人
（3）スタンプラリー	延べ 1,514 人
（4）プレーパーク	延べ 500 人
（5）ガイドボランティア	延べ 124 人
（6）ワークショップ	延べ 1,288 人

2 市民参加・協働等

（1）ボランティア活動の支援（4 月～3 月）

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4 つのボランティアグループ、計 48 名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- ・温室管理ボランティア「ミモザ」 15 人
 - ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 13 人
 - ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 8 人
 - ・公園ガイドボランティア「ガイド」 10 人
- 合計 142 日 延べ 714 人

（2）体験学習、実習等の受け入れ

例年、札幌市内の小中学校や近郊の高校、専門学校などから、環境学習や職業体験、インターンシップの受け入れを行っており、今年度は以下の受け入れを行った。

- ・篠路西中学校 職場体験 6 人 9 月 17 日
- ・栄中学校 職場体験 5 人 10 月 30 日
- ・上篠路中学校 職場体験 3 人 11 月 7 日
- ・百合が原小学校 総合学習 90 人 7 月 3 日
- ・新琴似北小学校 新聞製作 3 人 8 月 20 日

（3）生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信を行った。

（4）子ども食堂の開催

レストランにて、子ども食堂を 4 月 28 日から 10 月 27 日の第 2・第 4 月曜日に計 11 回を開催し、413 人が参加した。

（5）展示

様々な取り組みの発表の場として、近隣の大学と協働展示を行った。

- ・酪農学園大学と協働で、ユリ展を開催した。

3 緑の相談（4月～11月）

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週2回（木曜、日曜）、緑の相談業務を行い、相談件数は402件だった。

4 利用料金収入（4月～3月）

リリートレインは、利用者サービスの向上と利用促進を目的として料金設定を見直し、小中高生と65歳以上を対象に割引料金を設定（450円→400円）、夏休み期間（小中高生）とシルバーウィーク（65歳以上）に割引イベント（1人200円）を実施することで、利用料金収入の増加と利用促進を図った。緑のセンターは開花情報やイベントの広報発信を積極的に行った。利用料金収入は前年より増加した。

利用料金収入合計 16,535,450 円（緑のセンター温室、世界の庭園、リリートレイン）

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで維持してきたイサム・ノグチデザインの公園としてのクオリティを確保しながら、魅力ある公園づくりと情報発信力を活かし、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用を軸に事業を展開した（入園者数 879,400 人）。

（１）市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

ア 快適で安全な公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

園内で開催されるマラソン大会や自転車レースなど多様なイベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。また、毎年実施されている「北海道芸術花火 2025」（主催：北海道芸術花火 2025 開催委員会 / NPO 法人北海道芸術花火）は、来場者数 19,000 人が訪れた。

施設等の管理では、安全管理、事故防止に加え、各種イベントへの柔軟な対応・協力を行い、魅力ある公園づくりに努めた。

イ 国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、SNS などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラの開花情報のお知らせや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めた。また、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

ウ 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。これらの事業には多くの来場者が集い、利用促進及び公園の価値向上につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧者数	イベント名	観覧者数
①モエレの 20 年展	6,961 人	⑤モエレのホワイトクリスマス 2025	329 人
②さと・モエ合同ウォーキング 2025	109 人	⑥所蔵品展 「イサム・ノグチ あかり」展	5,091 人
③モエレ沼公園グランドオープン 20 周年記念事業 渡部睦子個展「星見るひとたちと出会う旅」 in 札幌	1,325 人	⑦やってみよう！歩くスキー	16 人
④モエレ沼公園グランドオープン 20 周年記念事業 大橋英児写真展「Your eyes are our eyes」	3,488 人	—	—

（２）他団体と連携した誘客活動

北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的な PR 活動などの取組に努めた。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、ボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会やNPO法人、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めた。

■NPO法人・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	参加者数	活動内容
モイレ HIDAMARI	延べ 121 人	サクラツアー、手作りウッドカトラリー、手作りバードコール等（計 26 回）
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	延べ 36 人	モエレ未来の森づくり 2025、花壇の除草ボランティア等（計 7 回）

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、スノーシューやソリなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

例年 2 月に実施している「モエレ山爆走そり大会」（運営の中心は東区役所地域振興課）では、実行委員会の一員として円滑な運営に協力し、モエレ山の雪面を活かした地域連携型イベントとして数多くの参加者と観覧者で賑わった（参加者 91 組）。

4 利用料金収入

令和 7 年度よりスポーツ施設、レンタサイクル、ガラスのピラミッド貸室の利用料金が改定された。

テニス、陸上競技場の大会利用は、悪天候の日があまりなくおおむね順調に実施された。

レンタサイクルは貸出時間単位が 2 時間から 1 時間へと変更となり、収入は大幅に減少した。

ガラスのピラミッドの貸室では、結婚式の前撮り等の撮影利用やコンサート、ピアノ発表会、展覧会など幅広い活動に利用された。利用件数が増加したこともあり、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 17,768,652 円

（テニスコート、陸上競技場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド）

モエレ沼公園野球場

令和 7(2025 年)年 4 月から供用を開始した。札幌市スポーツ部と連絡・調整及び、円山球場などを管理している一般財団法人札幌市スポーツ協会と連携・技術指導などの協力を受けて大会対応をはじめ野球場を運営した。

野球場施設について、令和 7 年(2025 年) 2 月下旬に引き渡しがされたものの実際の運営において、発生した音響設備、スコアボード設備のほか施設の不具合に係る調整を施工業者と継続して行った。

1 普及啓発・利用促進事業等

夏期の利用がほぼ大会での優先利用であるが、年間スケジュール表をホームページで公開し、利用促進を図った。また、冬期の利用促進事業として、ブルペンLは冬期に閉鎖されることから、有効利用を考えバッティングも可能な室内練習場として開放したほか、スキー・スノーシューなどのレンタルも実施した。

- ・施設利用者数 65,979 人

2 市民参加・協働等

野球競技の普及のため、NPO法人北海道野球協議会との共催により野球教室を実施した。野球教室の実施運営にあっては、一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会北海道連盟、公益財団法人ボーイズリーグ日本少年野球連盟北海道支部、一般社団法人日本ポニーベースボール協会北海道連盟の協力により、未就学児や児童のサポートをしていただけた。

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキー、スノーシューなど、ウインタースポーツ用品の貸出しを行った。

4 利用料金収入

大会利用は悪天候の日があまりなく、おおむね順調に実施された。冬期の練習場利用については、積雪が遅かったことや初年度供用ということもあり、穏やかな利用となった。

利用料金収入合計 8,735,936 円

(競技場(放送設備含む)、多目的室(会議室)、照明設備、冬期屋内ブルペンR)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

ライラックを中心とした花修景の拡充、地域に根付いた健康増進施設、幼児から高齢者までだれもが使いやすい快適な公園管理を柱に利用促進事業を計画し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組むこととした。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

ア ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「2025 年さっぽろライラックまつり」では、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの育て方等の相談会を実施し、ライラックの普及啓発を行った。川下会場では、苗木無料配布や、ライラックガイドツアーの開催、苗木の販売、クイズラリーを実施したほか、SNS を利用したイベントを企画し広報媒体にも工夫を凝らした。また、幅広い年齢層に楽しく、ゆったりとライラックを観賞していただくための空間作りとして、ライラックの森内に宿根草や一年草のハンギングバスケットを用いた写真スポットやテーブル、椅子などを設置したところ、大変好評であった。

イ 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、各施設の有効活用や市民の健康増進を目的として利用促進事業を実施した。幼児～小学生を対象としたフリースタイルダンス教室のほか、比較的受講者の年齢層が高い水中健康教室は、今年度より週 1 回から週 2 回に増やし開講した。また、夏休み直前に着衣泳講習会を開催し、水辺で過ごすシーズンがピークを迎えるにあたっての水難事故防止対策とプールの有効活用を図った。

また、川下公園パークゴルフ場では、春に大会を開催し、他公園に参加の呼びかけを行ったことにより近隣地域以外からの参加もあり、公園の認知度を高め、参加者の交流を深めた。

■自主事業等による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①水中健康教室	1112 人	⑥かわしもミニ縁日	1194 人
②リラキャンブ	14 人	⑦ネイチャークラフト講座	32 人
③さっぽろライラックまつり in 川下公園	8,403 人	⑧雪とあそぼう in 川下公園	698 人
④パークゴルフ大会（川下公園 PG 場、春開催）	17 人	⑨川下公園スノーラフティングボート	278 人
⑤夏休み直前 着衣泳講習会	6 人		

2 市民参加・協働等

(1) 市民参加のボランティア活動

市民ボランティアと協同で川下ミニ縁日を実施し、ファミリー層を主体に多くの市民に夏のイベントを楽しんでいただいた。

(2) 市民協働の活動

近隣小・中学校の校外学習の場として「白石区でっち奉公」を実施し、4 校 18 名の小・中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣の川北小学校からは、冬休み期間中の積雪不足により、校庭に雪山を作ることができず、川下公園のスキー山をスキー学習にて使用したい旨の依頼があり、安全に利用できるよう整備をするなど、地域の子どもたちへの環境教育に努めた。

近隣町内会や教育機関等の関係者の参加により川下公園利活用協議会開催し、公園管理や活用方法について話し合い、公園と周辺環境の整備に関して、今後も地域として継続的に相互協力することを改めて確認した。

このほか、北東白石まちづくりセンターによる凧揚げ会への協力、北東白石地区青少年育成会による「雪あそびフェスティバル」において、テントの貸し出しや雪山づくりや、雪上ラフティングボードの実施など、近隣の子どもの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石こころーどにおける環境美化活動」に参加し、白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

3 ライラックの継続的な品種管理

今期の夏は雨が降らず、ライラックの森のライラックが萎れ始める様子が見られたが、大型タンクをライラックの森に運搬し、灌水を強化することで対応した。

また、除草による根上りも見られ、札幌市に植栽土の予算計上について、お願いをしている。そのほかに、品種保持のための取組として、挿し木を 1000 ポット、株分け 100 ポット行った。

4 利用料金収入

利用料金収入については、前年度比で 109% の収入となった。その要因として、利用料金の増額が挙げられる。また、小中学生や家族連れの利用者が得する家族割プランや、運動有料施設を利用した方がお得に入浴できる新プランを引き続き行い、新規顧客や固定客の増加を狙った。

利用料金収入合計 15,569,617 円（北郷公園 1,074,300 円含まず）

（川下公園浴室・プール、川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場）流地区サッカー場）

5 リラックスプラザ時短営業継続

川下公園リラックスプラザは前年度から引き続き、光熱水費等の高騰による維持管理費増を発端とし、施設運営の効率化を図り、望ましい管理運営形態の検討を行う目的で、営業終了時間を 21 時から 19 時までと 2 時間短縮した。

水道・電気・重油使用量などの削減には至ったものの、金銭面で見ると重油や電気料金の高騰や人件費の高騰で委託費などの経費の削減が想定より少なかった。

また、新料金プランを作るなど利便性を高めるほか、卓球スペースなど増設し小学校高学年向けの事業も引き続き展開した。

3 月に開催された、川下公園利活用協議会の中では、町内会や近隣学校から、前年度の要望事項を今年度の管理に反映したところフットワークが軽い、要望を聞き入れていただき感謝するなど称賛の意見が多数あった。

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平公園緑のセンターでは令和7年度、計画通り全ての展示会、講習会を実施した。センター年間来館者は119,119人（R6：119,474人）となり、昨年度とほぼ同じ（前年度比99%）となった。

（1）市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター（昭和54年3月開所）として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、令和7年度も人気の植物や、古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフトの展示会、また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会、ワークショップを開催した。展示会は前年度比101%、園芸教室等は前年度比92%となった。

イベント名	回数	参加者数	R6 参加者数
展示会（パンジー・ヴィオラ展他） 延べ166日間	28回	延べ 66,512人	延べ 65,454人
園芸教室（洋ランの栽培、ロープワーク、鉢花・草花・球根類 他）・ミニ園芸教室（イチゴ他）	29回	延べ 163人	延べ 175人
園芸講座（バラづくり、宿根草、盆栽）	8回	延べ 142人	延べ 159人
クラフト講習会（あけびクラフト、レカン、植物クラフト、ナチュラルリース）	16回	延べ 162人	延べ 183人
コチョウラン植え替えサービス	3回	延べ 64人	延べ 60人
観察会	3回	延べ 51人	延べ 56人
ワークショップ（苔玉）、PH測定会	6回	延べ 45人	48人

（2）市民、他施設との共同イベント開催

令和7年度は、1月17日に当公園登録ボランティアと協働でスノーキャンドルイベントを開催し、スノーキャンドルや雪像を作製した。また、札幌市の生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「さっぽろ生き物さがし2025 写真コンテスト」の審査といった活動に参加した。

（3）緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行して、約13,000部を札幌市各区役所や近隣まちづくりセンター、公共施設、各公園に無料配布するとともに、公式ウェブサイトでも公開した。

北国の園芸情報の発信及び、豊平公園、百合が原公園、平岡樹芸センターの札幌市都市緑化植物園での、旬の開花情報や写真、イベント案内などを掲載し、好評を得た。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、登録ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行った。

・豊平公園花とハーブの会 25日間 延べ210人

園内清掃、屋外花壇・植栽管理、センター内植物管理、花壇・野草園・芝生内除草、リース作製や飾りつけ、イベント作業等

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、休館日を除く毎日、電話、対面での緑の相談業務を行った。
前年度より若干の増加がみられた。

- ・相談件数 電話、対面相談を合わせて 10,532 件（R6：11,430 件）

4 利用料金収入

利用料金収入合計 2,182,230 円 ※テニスコート、講義室

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等（平岡公園）

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産としての平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

（１）魅力ある公園づくりと情報発信

ア 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

令和 7 年度は、計画通り梅まつりを開催した。梅林ツアーなどのイベント開催や梅ソフトクリーム・土産販売所など設置し、サービスの提供も行った。また、ホームページにて、令和 7 年度のウメ開花状況の写真を掲載し梅林の魅力発信に努めた。

イ 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携による環境教育の拠点としての役割を果たし、協力している近隣小学校や大学の環境教育授業などは依頼があったものは開催した。地域ボランティア及び連携大学と協働で行っているイベントもほぼ計画通りに開催した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① 公園ツアー	6 回	60 人	1 回雨で中止
② ヘイケボタル観察会	2 回	77 人	1 回雨で中止
③ ベースボール体験イベント	3 回	27 人	
④ 雪のおうちイグルーを作ろう	1 回	3 家族	
⑤ 平岡公園テニス講習会	2 回	22 人	

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① ながぐつの土ようび	7 回	77 人	雨天 2 回中止 参加者無 1 回
② ツリーウォッチング	6 回	80 人	
③ にぎわいフェスタ	2 回	65 人	夏・冬

■学校等の授業への協力一覧

学校名	回数	参加者数	備 考
平岡南小学校（3 年生）	2 回	74 人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋
平岡公園小学校（3 年生）	2 回	95 人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋

2 市民参加・協働等

（１）市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れる準備を行った。出来る限りの支援を行い、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
平岡どんぐりの森	22 日	延べ 150 人	人工湿地管理・環境イベント等
パークゴルフボランティア	200 日	延べ 400 人	パークゴルフ場管理・利用調整

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	活動日数	参加者数	備 考
清田南公園野球場ボランティア	244 日	1 名	少年野球場の利用調整

(2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、例年ボランティア団体や大学、研究者等と連携会議を開催している。令和 7 年度は、「はらっぱ会議」を 3 回開催した。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,886,650 円（平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓発並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を開催した。令和7年度は、人気の寄せ植えアレンジ等のクラフト講習会を継続し、計画通り全ての講習会を実施した。

樹芸センター令和7年度年間来園者は87,454人（R6：80,375人）となり、昨年度比8.8%増となった。

■自主事業による開催イベント一覧

事業名	回数	参加者数	備 考
①園芸教室	13回	延べ149人	マツ、オンコ、モミジ、果樹等の剪定等
②クラフト教室	6回	延べ60人	あけびクラフト、寄せ植えアレンジクラフト等
③オリエンテーリング	2回	延べ202人	春と秋のクイズラリー
④ひらおか庭園コンサート	1回	延べ770人	庭園コンサート
⑤Enjoy 平岡夏祭り	1回	延べ1164人	コンサート、ビンゴゲーム、キッチンカー等
⑥まちに灯りを in みどりーむ 2026	1回	延べ70人	スノーキャンドル

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。

また、ともにボランティア活動をしている「樹木会」も、適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理を実施することができた。その他、札幌市の生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として連携事業の「さっぽろ生き物さがし 2025 写真コンテスト」の審査といった活動に参加した。

■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	参加者数
環境サポーターズ 三次郎の会	37日	延べ108人
樹木会	20日	延べ33人

環境サポーターズ三次郎の会と9月に「庭園コンサート」を共催し、1月に「スノーキャンドルイベント」の協力、樹木会は園内の剪定等の樹木の手入れを協働で行った。また、平岡地区町内会連合会との共催で8月に「第2回 Enjoy 平岡夏祭り」を開催した。

3 緑の相談

市民園芸の普及と支援のため、週2回（水曜、土曜）、対面と電話相談による緑の相談業務を行っている。相談件数は394件（令和6年度 546件）

4 利用料金収入

利用料金収入合計 37,980円（講義室）

農試公園

1 普及啓発・利用促進事業等

5ヵ年計画であった再整備工事が令和6年度で完了し、フルオープン初年度となり年間を通して大勢の利用があった。特に人気となった施設は「自転車コーナー」「トンカチ広場」で過去類を見ない利用者数となった。家族連れの利用者が急増したため、幼児でも楽しめる遊びを取り入れた子ども向けのまつり等を開催し好評をいただくことができた。混雑により迷子が多発するため、ちゃぷちゃぷ広場にて、直営による玩具や衛生用品の販売及び迷子センターを設置し、サービスの向上を図っている。近隣に飲食店が少ないことから、キッチンカーを最大7台/日ほど設置し、軽食を取れる環境を提供している。

(1) 無料施設毎利用者数

ア) トンカチ広場 17,685 人/年 ※令和6年度比+7,708 人

イ) 自転車貸出 48,423 人/年 ※令和元年度比+15,629 人

(2) 直営売店売上（ちゃぷちゃぷ広場、トンカチ広場）

2,473,250 円

(3) 自主事業（イベント）

事業名	回数	参加者数
愛犬といっしょの公園散歩講座	1 回	13 人
かけっこ教室	34 回	延べ 142 人
サッカースクール	28 回	延べ 369 人
園芸クラフト	4 回	延べ 34 人
はじめての自転車教室	4 回	延べ 36 人
プレーパーク（忍者になって修行だ！）	1 回	9 人
夏、秋まつり	2 回	延べ 1,860 人
ノルディックウォーキング各種講習会	15 回	75 人
わいわいタイヤチューブ	20 回	延べ 1,578 人
歩くスキー講習会	1 回	19 人

2 市民参加・協働及び地域連携等

関係機関と連携し、ツインキャップを有効活用した防災やインクルーシブ等の普及活動を行った。ツインキャップ内サンルームの観葉植物については、再整備工事で撤去した植物の復旧を登録ボランティア活動により実施した。

名称	回数	参加者数
花壇ボランティア「カボック」	31 回	延べ 149 人
近隣小学校による花壇づくり	1 回	66 人
親子サッカー教室（西区マラソン大会共催事業）	1 回	34 人
みんなでワイワイ♪ふうせん&モルック大作戦（札幌市保健福祉局共催）	1 回	約 50 人
交通安全こども自転車北海道大会（一般財団法人北海道交通安全協会共催）	1 回	約 20 人
西区防災実技研修（西区共催）	1 回	約 100 人
スノーキャンドルイベント	1 回	約 200 人

3 利用料金収入

ツインキャップ屋内広場（アリーナ）は改修工事によりトイレの様式化、照明のLED化、空調設備の性能が回復したことにより、一定のサービス向上になっている。また、近年注目されているモルックは、令和5年度より一般開放の種目として取り入れており、利用が増えている。発寒西陵公園テニスコートは改修工事（全塗装、クラック修理）のため、7月から開放した。

利用料金収入合計 18,613,100 円（内訳：農試公園 18,241,400 円、発寒西陵公園 371,700 円）

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内4箇所の運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行っている。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会を企画した。

令和7年度は、自主事業として「稲積テニスサークル」を開設しサークルメンバー49名を集め、テニスコート稼働率向上とテニス人口のすそ野を広げた。

また、地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラフト体験の回数増加や、市民サービス及び地域還元の一環として次年度配布予定の園内植物残渣を活用した腐葉土準備、「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを企画した。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

事業名	回数	参加者数
テニス講習会初心者コース	3回	5名
テニス初級講習会	2回	3名
稲積テニスサークル	13回	232名
芳香蒸留水ワークショップ	2回	14名
アナベルリース講習会	2回	8名
ナチュラルリース講習会	6回	59名
ハーフトツリー講習会	1回	2名
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	令和8年2月7日	60名

(2) 有料運動施設の情報発信による利用機会の向上

公式ウェブサイト内に有料運動施設（テニスコート）の利用状況を発信するカレンダーツールを使用し、迅速な情報更新をすることにより、利用者が施設予約の際の日程調整をしやすいよう工夫した。また空き状況は都度公園公式サイトにて告知を行った。

令和7年度よりLINEアカウントを開設し、コートの空き情報をリアルタイムで発信することで、急な空き枠への利用申し込みを増加させることができた。

2 市民参加・協働等

3公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行っている。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」の開催をしてきたが、令和7年度は単独での開催ではなく、連合町内会会議への参加、近隣児童会館の協議会への参加等の際、公園に関する情報交換の場を設けていただき公園への要望等を伺った。また、参加組織のメンバーと個別に情報交換を行う機会を持ち、公園管理運営に反映させた。

公園ボランティアの活動に関しては、地域の青少年育成会、近隣授産施設によるボランティア活動のサポートを実施した。手稲稲積公園のパークゴルフ場のボランティア組織は高齢化のため令和5年度で活動を終了しているが、その後は近隣住民有志の協力をいただき利用者の声を直接聞く機会を持ち、管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

例年、近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用への協力や、地域の児童会館の花壇と畑への技術提供、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図ってきた。

令和7年度は、昨年札幌市と協議の上復活した稲積連合町内会による「稲積ふるさと祭り」の会場として遊戯広場と休養広場で開催され、開催まで諸々の調整サポートを行った。

その他、町内会行事のサポート、地域の就労施設による植物ボランティアのサポート、児童会館の花活動、前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動への協力、連合町内会の街路樹植栽花壇の緑化・美化活動への協力、近隣教育機関の清掃活動場所提供、近隣小学校PTAへの植物資材提供等を通し、地域における公園の価値向上に努めた。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体による地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通してJRやバスなどの公共交通機関利用者が冬期間でも安全に通行できるよう、降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	実施/中止
5/2～	鉄工団地通街路樹花壇のメンテナンス活動	毎週1回実施される就労継続支援施設「ていね・さくら館」によるボランティア活動への協力	実施
4/26～ 10/25	前田地区青少年育成委員会による公園清掃活動	毎月第4土曜日に開催される、委員会による公園清掃活動への協力（前田公園、稲積公園の2カ所）	実施
5/31	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽 34 コマへの花壇造成用の花苗保管、資材提供と技術指導・協力	実施
6/1	稲積連合町内会会議	令和6年度連合町内会行事に関する確認会議出席	実施
6/10, 15	稲積ふるさと祭り実行委員会	7月開催のふるさと祭り実行委員会に会場アドバイザーとして参加	参加
6/11	稲積小学校3年生花壇植栽	稲積小学校3年生により、休養広場の花壇に1300株の花苗を植栽する体験実習を実施	実施
6/30	稲積安心・安全まちづくり協議会「夏休み非行防止教室」	当園も協議会に加盟。7月1日に稲積中学校で夏休み前の「非行防止教室」に参加	実施
7/24	稲積小学校4年生発表会参加	「稲積公園を考える」をテーマに公園にほしいもの、公園での遊び方などグループごとにまとめた発表会に参加	参加
5/24、 6/4、 11、17、 R8/2/7	いなづみ自然クラブ	いなづみ児童会館の小学生と共に、花壇や畑への播種、水やり、手入れ等への技術提供による花育活動と冬期の公園利活用の場として提供	実施
6/9、 7/27	稲積ふるさと祭りへの協力	稲積連合町内会主催の祭りの運営に協力し、設営・撤去及び来場者導線の確認等実施	実施
8/2	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、テント等の貸出	実施

10/25	稲積連合町内会下手稲通・富丘通街路樹植栽樹花壇造成	稲積連合町内会による下手稲通・富丘通の街路樹植栽樹 34 コマへの花壇造成用の資材提供と協力	実施
11/9	稲積安心・安全まちづくり協議会 落葉収集ボランティア作業	稲積連合町内会と協働で公園前道路の落葉収集ボランティア作業への協力	荒天中止
2/7	冬のまちにスノーキャンドルの灯りを灯そう！ i n 手稲稲積公園	いなづみ児童会館の子どもたちと一緒にスノーランタンを作り会場設営を実施	実施
3/17	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討	実施

3 利用料金収入

令和 7 年度の有料運動施設は 4 月 20 日から 11 月 30 日まで予定どおり開放した。

手稲稲積公園のテニスコートの大会利用は優先予約団体のキャンセルや雨天のため、昨年度の稼働率 40% から 39.1% と減少した。北発寒公園テニスコートは昨年 33% が 34% と増加している。

利用料金収入合計 14,995,200 円（手稲稲積公園テニスコート・野球場、北発寒公園テニスコート・野球場、前田公園野球場）

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、公園北側に位置する展望ラウンジから手稲山に向かって、全長 600mのカナールとポプラ並木が一直線上に伸びる壮大な景観と、ふるさとの森、つどいの森、野鳥の森等公園の過半を占める樹林帯の自然環境の保全、芝地・草地や野球場・球技場・パークゴルフ場等の有料運動施設の維持管理において、特に利用者の安全に留意した維持管理作業を実施した。

また、園内掲示版や広報さっぽろ手稲区版への定期的な情報提供のほか、公園・緑地の公式ウェブサイトや SNS を活用し、四季で移り変わる景観やサクラやフジ等の開花状況などのタイムリーな公園情報を発信し、当公園の豊かな自然環境と公園の魅力を P R し、新規の公園利用者誘致、リピーターの再訪を促した。

(1) 安心・安全な公園づくりの基礎となる、事故を未然に防ぐ樹木管理

造成から 40 年近く経過した前田森林公園は敷地の過半が樹林帯であることに加え、同時期に造成された星置公園は樹木が高木化して樹木同士の被圧による枝の垂れ下がりや枯損が目立つことから、樹木管理においては枯損木や枯損枝、危険木等の伐木処理について、公園利用者の通行往来や隣地・公園施設への被害が想定される箇所から段階的に実施するとともに、高所作業車運転操作技能の向上を図り、暴風雨により都度発生する被害木を安全かつ迅速に処理できる体制づくりに努めた。

令和 7 年度は高所作業車を利用して前田森林公園の野鳥の森の高木を重点的に剪定や枯損木の処理を、星置公園は小学校側の園路を被圧していたカエデやシナノキの下枝を上げる作業を行い、倒木被害を軽減するための措置や園路灯の照度を確保する措置を実施し、来園者の通行の多い主園路を中心に、安全安心な公園づくりを行った。

加えて、樹林地内での折れ枝や枯枝、リサイクルヤードの枯損木のチップ化処理や樹木の株元へのマルチング処理、園内で発生した落葉の腐葉土処理、他公園で発生した剪定枝や枯損木の受け入れを行い、植物リサイクルを積極的に進めた他、昨年度よりバイオマス堆積場に運搬を行った。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業と、ボランティアや教育機関との連携

公園の魅力を高め、公園資源を活用して利用促進を図ることを目的としたボランティア団体の活動や教育機関との連携による環境学習やイベントの実施調整を行い、前田森林公園のボランティア組織と協力してフジの開花期に「ふじまつり」を開催したほか、「トンカチ広場」、「自然観察会」を計画通り実施することができた。

冬期間は、公園の特色を活かしたクラフト系イベントやクロスカントリースキー講習会を開催した。特に歩くスキーレンタルやスノーラフティング等の冬のアクティビティは、冬の公園の利用促進と市民の健康づくりの場として多くの利用者に好評であった。

■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期・回数	参加者数
①カナール春・秋清掃	4 月、11 月(2 回)	37 人
②トンカチ広場 (4 回は雨天中止)	5～10 月(全 10 回)	235 人
③ふじまつり	6 月 1 日(1 日)	2,000 人
④自然観察会	5～12 月(6 回)	161 人
⑤はじめてのパークゴルフ講習会 (前田森林・共催)	6 月(4 回)	32 人
⑥パークゴルフ交流大会 (前田森林・協賛)	7 月 27 日(1 日)	63 人
⑦歩くスキー簡単初心者講習会	2 月(2 回)	16 人
⑧歩くスキーレンタル	2～3 月 (29 日)	989 人
⑨スノーラフティング	2～3 月(11 日)	337 人

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

公園への親近感の醸成や更なる利用・活用を促すことが出来るよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした学校教育での公園利用活動を支援した。

(1) 公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、フジの開花期に「ふじまつり」を開催したほか、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や公園の四季の移り変わりや動植物の観察ができる自然観察会を開催した。

また、前田森林公園クリーンボランティアのほか、広報さっぽろで参加を呼び掛け、一般市民の方に気軽にボランティア活動に参加いただけるよう、カナルを中心とした公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に協力・貢献していただいた。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など（5～12月）
トンカチ広場 10回（内4回は雨天中止） 延べ235人
自然観察会 6回 延べ161人
- ・市民ボランティアによるカナル清掃 2回 延べ37人

(2) 教育機関の公園フィールドでの活用（前田森林公園他）

近隣の教育機関からの授業・実習の協力依頼の受け入れを行った。

① 北海道札幌高等養護学校（各3人ずつ）の職場体験学習（園内緑地管理作業実習）

9月8日（月）～11日（木） 10:00～14:00

10月6日（月）～9日（木） 10:00～14:00

また、同高が授業で制作した製品（陶器・木工品・縫製品等）販売に協力し、販路の一つとして当該公園売店を提供した。

② 前田北中学校／稲穂高等支援学校

2月の両校の体育の時間に、公園の歩くスキーコースと貸出用スキーを利用した学習の受入を行い、前田北中学校が延べ4日間、稲穂高等支援学校が延べ2日間の利用があった。

3 利用料金収入

コロナ禍以前の収入が期待されたが、ゴールデンウィークやシルバーウィークの雨天による有料運動施設全体の利用減や、獣害や競合施設の増加や競技人口が減少し続けているパークゴルフ場は利用者減少に歯止めがかからず、前年度より580,577円の減収となった。

利用料金収入合計 20,145,028円（前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場）

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1) リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、公園内の自然情報については季節に応じた触れる展示を中心に、ホワイトボードや公式ウェブサイトにて常時最新情報の発信に努めた。

園内で見られる生物紹介展示については、多くの来館者から好評を得ており、季節毎にテーマを変え展示を行ったほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。

季節に合わせて、ミズバショウやハリオアマツバメ、ヘイケボタル、ヒグマ、落ち葉や冬芽、その他鳥類等の紹介展示の他、西岡公園の水辺に生息するドジョウ（3種）、トミヨ、モツゴなどの淡水魚の生体展示を継続して行うなど、自然への理解や関心を深めるきっかけとなる情報の提供ができた。また、公式ウェブサイトでも最新の自然情報等を発信し、自然観察等の公園の利用促進に努めた。

(2) 自然や生物に関する講座・観察会等の開催

年間を通して、計画通り実施することができた。西岡公園の植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説する「おさんぽガイド」はクマ出没のため公園閉鎖になってしまった。1回を除き、その他は予定通り実施。天候により参加者数の増減はあるが全体的にとっても好評であった。工作イベントについても予定どおり実施したが今年は子どもの参加より大人の参加が多い傾向にあった。

特定外来生物の防除活動としてのオオハンゴンソウの駆除はボランティアと協働で実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。ここ数年、個体数が少なくなっており、昨年に続き今年度についても園内で確認できた個体はほぼ無かった。今後も気を抜かず今の状態を維持できるように努めていきたい。

(3) 子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携し、季節に応じた子どもが生み出す遊び場づくり「西岡プレーパーク」、未就学児親子対象の「ちょこっとプレーパーク」を実施した。ちょこっとプレーパークは平日に遊べる場や保護者同士のつながりの場を提供することができた。

そのほか、昨年度から始めた、冬季自主事業スノーシュー体験ツアーは今冬人気で全4回実施することができた。次年度以降も既存のイベントだけでなく、公園のフィールドを活かしたものを模索しながら実施していきたい。

(4) 体験学習実習の受け入れ

ここ数年、実習の受け入れの実績は無かったが、今年度、北海道札幌高等養護学校からの依頼を受け、公園業務の実習を行った。今後とも依頼があれば対応していきたい。

- ・北海道札幌高等養護学校 2学年 1名
10月14日～24日の土日を除く9日間

2 市民参加・協働等

(1) 西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では7つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、樹木管理/ツリークライミング体験、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め実施しつつ、活動や様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア4団体の協力により、プレーパークや自然観察、木工クラフトなどを開催し、参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。

「ツリークライミングクラブ ハミングバード」(ツリークライミングジャパン公認認定資格者)により、高木の枯損枝処理や、西岡ピクニック時にツリークライミング体験を今年度も実施することができた。

秋の「にしおかピクニック」や冬の「スノーキャンドルイベント」については、予定通り実施したが、ピクニックの日は午後から大雨となってしまう例年に比べると少ない参加者数であった。

冬期のイベントは積雪が十分にあり盛り上げることができた。今年は冬のイベント時に移動販売車を試しに配置したところ、そこそこ売上げがあり参加者も喜んでいたのでから次年度以降も来園者が多く集まるタイミングで配置していきたい。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
① おさんぽガイド	203 人	② ちょこっとプレーパーク	196 人
③ 西岡プレーパーク	239 人	④ にしおかピクニック	96 人
⑤冬の西岡公園にスノーキャンドルの灯りを灯そう	124 人	⑥ 子りす工房	68 人

(2) 西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

積雪が少なく融雪が早かったため、多目的広場は4月1日から、パークゴルフ場は4月23日からのオープンとした。春先にはパークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体と協働でオープン準備や園内施設の維持管理を実施したほか、オープン後も維持管理、整備等を行い、利用者の意見・要望等を聴取し、管理や活動に役立てるよう努めた。また、次年度よりパークゴルフ場の改修工事が予定されており、秋のクローズ後パークゴルフ同好会と協力し道具等も含め撤収作業を実施し無事完了することができた。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる1年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。当初の計画通り実施することができた。

活動報告展について、市内4会場（西岡公園・博物館活動センター・札幌市豊平川さけ科学館・円山動物園）で実施した。各会場で担当スタッフの協力も得られ、展示や解説（円山動物園会場）についても今年度も実施することができ、とても好評であった。

これらの活動は、専門家や子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わることで、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができたと考える。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数	参加者数	活動内容
西岡さかな組	9 日	延べ 65 人	水生生物の調査
西岡ヤンマ団	10 日	延べ 101 人	トンボの調査、標本作り (新規団員向けの標本講座 1 回開催)

4 利用料金収入

令和7年度は例年と同時期の4月19日からの利用開放となり、シーズンを通して利用していただくことが出来た。利用状況に合わせ清掃や補修をこまめに行うなど、利用促進に努めた。

土日の利用は多いものの平日の利用が昨年よりも伸びなかったこと（夏の良い時期に天気が悪かったことや気温が高すぎる事もあり）で前年度を下回った。

今期設定された収入目標についても達成することはできなかった。

利用料金収入 571,200 円

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やホームページや SNS による観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

ア 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの市民に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。入館者数は、前年度比 104% の 54,215 人となった。6 月には「知る見るカニさんザリガニさん」(参加者 52 名)および「知る見るカエルさん」(参加者 42 名)を開催し、後者では専門家による在来種・外来種等に関する普及啓発が行われた。また、6 月 29 日にはサンピアザ水族館において実施された連携事業に参加し、来館者への解説対応及びさけ科学館の PR 活動を実施した。7 月及び 8 月は記録的な猛暑により来館者の出足が鈍り入館者数が減少した。9 月からは展示および採卵用のサケ親魚の活魚輸送を開始し、11 月末まで飼育展示を行った。調査活動としては、真駒内川および豊平川におけるサケ・サクラマス産卵床調査を実施した。1 月から 2 月にかけては大雪や吹雪により来館者数の減少が懸念されたが、2 月下旬以降は気温上昇と雪解けの進行により来館者の動きが回復した。3 月上旬は天候不良の影響を受けたものの、中旬以降は好天により入館者数が増加し、さらに下旬には春休みに入ったことから家族連れの来館者が目立った。

イ サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、2 日間で 2,094 人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も実施した。9 月 21 日(日曜日)にサケ遡上シーズン序盤のイベントである「さっぽろサケフェスタ 2025」では、館内クイズラリーなど各ブースとも好評で親子連れのお客が多くみられ、来場者数は 734 人となった。また、サンピアザ水族館との連携により「古代魚」の出張飼育展示を実施し、通常当館では見ることのできない魚類の展示であったことから来館者の関心を集め、好評を得るとともに、両館の PR につながる取組となった。11 月に開催された「サケの人工授精体験」には計 140 名が参加し、その多くが親子連れであった。普段は見ることのできない採卵の様子を間近で観察できるとともに、参加者自身が卵に触れる体験を通じて理解を深める機会となり、「貴重な体験ができた」との声が多く寄せられた(満足度 96.9%、回答数 130 件)。

サケ学習の指導・協力としては、東白石小学校や東橋小学校等に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

ウ その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを、企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
サケたちのエサやり体験(6回)	延べ 57 人	星置川さかなウォッチング(1回)	延べ 20 人
知る・見る カニさん、ザリガニさん(1回)	延べ 52 人	琴似発寒川サケ観察会(2回)	延べ 146 人
知る・見る・カエルさん(1回)	延べ 42 人	豊平川サーモンウォッチング(1回)	延べ 22 人
両生類のエサやり体験(1回)	延べ 5 人	サケの採卵実習(1回)	延べ 20 人
琴似発寒川さかなウォッチング(1回)	延べ 23 人	サケの人工授精体験(3回)	延べ 140 人
真駒内川さかなウォッチング(1回)	延べ 16 人	サケ飼育員の解説ツアー(3回)	延べ 9 人

(2) 他団体と連携した活動

ア 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体・大学・行政及び研究機関との連携を進め、運営の活性化に努めた。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にもできる限り協力するように努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は 39 年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行っている。

※令和 7 年度ボランティア活動(日数/延べ人数) 111 日/延べ 175 人

イ 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約 7 割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。また、1 月日(土曜日)に NHK 札幌放送局において開催された市民フォーラム「今どうなっているの？気候変動の影響を受けるサケマスたち」では、計 125 名の参加者であった。「本州・三陸サケの今」、「知床の森と海をつなぐカラフトマスの今」、「札幌のサケとサクラマスの今」の講演ののち、パネルディスカッションを行い、市民がサケを取り巻く生育の環境について考えるきっかけづくりができた。

また、学生ポスター発表では、4 グループがサケや水辺の生き物に関する発表を行い、参加者が熱心に質問する姿が見られ、活発な意見交換をする事ができた。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所の数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。なお、全道的にサケ資源は減少傾向にあり、千歳川の遡上数も過去 2 番目に少ない状況となっている。

調査の結果は、サケの観察情報としてホームページや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川 (※真駒内川を含む)	113 箇所	226 尾	星置川	73 箇所	146 尾
琴似発寒川	180 箇所	360 尾			

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

63 地点で調査を実施し、計種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から 39 年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

4 月 5 日(土曜日)、16 日(水曜日)、5 月 1 日(木曜日)、14 日(水曜日)、6 月 8 日(日曜日)に、「両爬の生態系をかんガエル札幌市南区チーム(かんガエル)」による国内外来種「アズマヒキガエル」の防除作業に協力し、情報を共有した。

6 月 25 日(水曜日)、7 月 17 日(木曜日)、18 日(金)、8 月 8 日(金曜日)、10 月 31 日(金曜日)、11 月 6 日(木曜日)に、北大地域科学研究室・札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課による、豊平川支流簾舞川付近、豊平川硬石山水道橋の魚類相調査及びウチダザリガニ調査、計測作業に協力し、情報を共有した。

(3) 大学・研究機関・行政等の調査・研究等への協力

大学や研究機関・行政等からの調査・河川工事・実習等への協力、調査記録の提供等、計 169 件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先：札幌市（市建設局土木部工事課、下水道河川局河川事業課、環境局環境共生担当課、円山動物園、小学校、中学校、高校等）、北海道開発局、札幌河川事務所、札幌建設管理部、石狩市振興課、(国研)産業技術総合研究所、水産資源研究所、標津サーモン科学館、サケのふるさと千歳水族館、AOAO 水族館、サンピアザ水族館、旭山動物園、東京大学、北海道大学、東海大学、札幌大学 等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園では、多様な公園活動と市民協働の推進に重点を置いて、普及啓発・利用促進に取り組んだ。イベントは20事業、延べ75回実施し、参加者は計5,054人となり、昨年度から2事業、12回増加した。月寒公園は多様な公園活動の推進を自主事業の目的としており、パークヨガや野鳥観察会、クラブ教室、パークゴルフ大会など、公園の新しい楽しみ方の提案やコミュニティの醸成につながるような多彩なイベントを展開した。今年度の新規事業は、「月寒公園碑探訪会」「薪ストーブで焼き芋体験」「パークライフセンターのインフォメーションボードを作ろう」の3事業で、いずれの事業も好評だった。「パークヨガ」「自然観察会」は回数を増やしたところ参加者も増加しニーズが高いことが分かった。

(1) つながりから生まれる多様な公園活動の推進

広大な芝生の広場で朝ヨガを体験する「パークヨガ」や、パークライフセンターの薪ストーブで使う薪を作る「薪割り体験」、札幌市内の農家がとれたての野菜を販売する「月寒公園マルシェ」など、多様な公園活動を推進するイベントを継続するとともに、今年度は、修復工事を終えた永遠の像を鑑賞し月寒公園内の石碑を巡り地元の歴史を学ぶイベント「月寒公園碑探訪会」、パークライフセンターの薪ストーブを活用した「薪ストーブで焼き芋体験」など、新規のイベントを開催した。11月以降の閑散期に開催することで、冬季公園の利活用や、新しい魅力の発見につながった。

(2) 身近な自然の活用と事業の展開

今年は「月寒公園自然観察会」を、植物・樹木編、トンボや野鳥編などテーマを変えて4回開催し、のべ75名の参加があった。博物館活動センターの学芸員や、北海道トンボ研究会に所属する高校生など、多彩な講師を迎え、ポート池などの水環境や自然林を有する月寒公園の特性を活かした観察会は非常に好評だった。

また、これまで北海道大学大学院教育推進機構と連携して「パークライフカフェキタキツネ」を毎年開催してきたが、野生動物と人の共生を考える上で避けて通れない問題である「餌づけ」をテーマに、「パークライフカフェ餌づけって何だろう～野生動物への餌やりを考える」を開催した。公園にとって餌づけは解決が難しい問題だが、餌づけが野生動物や人に与える影響を学び、それぞれに考えることで、餌づけがしづらい公園のムード作りを目指している。パークライフカフェは、公園の問題や課題を学び話し合う場として、誰もが過ごしやすい公園づくりの一助となっている。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
① つきさむこうえんであそぼうかあい（プレーパーク）	9回	452人
② おやこでわくわく月さむぼ〜うたえとえほんともりあそび	4回	72人
③ 月寒公園花壇づくり	1回	59人
④ ノルディックウォーク体験会	1回	6人
⑤ パークゴルフ大会	2回	52人
⑥ クラフトの森	18回	214人
⑦ 月寒公園ドッグランイベント	1回	40人
⑧ 月寒公園マルシェ	8回	920人
⑨ 親子でまき割り体験会	2回	4組
⑩ パークヨガ	4回	43人
⑪ 月寒公園ピクニック	1回	1,461人
⑫ 野の花を植えよう	1回	20人
⑬ 秋の月寒公園体験会〜元気で楽しいサロン	1回	20人

⑭ あそन्दル！月寒公園でゆきあそびとスノーキャンドル	1 回	818 人
⑮ パークライフカフェ～「餌づけ」ってなんだろう野生動物への餌やりを考える	1 回	24 人
⑯ 吉田川公園自然さんぽ	1 回	10 人
⑰ 月寒公園自然観察会	4 回	75 人
⑱ 月寒公園ナイトパーク	1 回	719 人
⑲ 月寒公園碑探訪会～歴史を語る石碑と野外彫刻を巡る	1 回	10 人
⑳ 薪ストーブでやさしい体験	6 回	51 人
㉑ インフォメーションボードを作ろう！	1 回	6 人

2 市民参加・協働等

月寒公園では、再整備を検討する中で市民により設立された月寒公園市民協議会と協働で、季節ごとに大規模なイベントを展開した。また、これまで協働でキツネの取り組みを進めてきた北海道大学と連携協定を締結し、野生動物に関する学びの場、対話の場づくりに取り組むことができた。

(1) 月寒公園市民協議会（愛称：月寒公園ファンクラブ）との連携

再整備を検討する中で市民により設立された月寒公園市民協議会と共催で、「月寒公園ナイトパーク」（8月）、「月寒公園ピクニック」（9月）、「あそन्दル！～つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル」（1月）を開催した。企画から実施まで協働で進め、手作り感のある親しみやすいイベントになっている。3つのイベントの参加者数は、合計 2,998 人と非常に多くの方に参加して頂くことができた。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	参加人数	活動内容
① 月寒公園ナイトパーク	719 人	近隣中学校合唱部などによるナイトコンサートやキャンドル点灯、夜の公園を探検し、ネイチャーゲームや昆虫観察を体験するナイトウォーク等夜の公園を楽しむイベント。
② 月寒公園ピクニック	1,461 人	屋外コンサートやステージ、月寒公園ファンクラブによるプレーパークやクラフト体験、北海道大学によるキツネ調査の紹介ブース、野菜の販売、市内福祉施設等の販売ブースなど、秋の公園を楽しむ多彩な企画を展開した。
③ あそन्दル！～つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	818 人	スノーキャンドルづくりと点灯、雪あそびやイグルーづくりなどを楽しむプレーパークを実施した。

(2) ボランティアとの連携

月寒公園では2団体が活動しており、特に月寒公園ボランティア会は、花壇の管理やシバザクラエリアの除草、イベントのサポート等、精力的に活動した。吉田川公園では、パークゴルフ場の管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、市民協働による維持管理を進めた。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動日数	のべ人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	20 人	62 日	479 人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理、イベントのサポート
月寒プレーパークの会	6 人	10 日	30 人	プレーパークの開催
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	3 人	145 日	423 人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ場振興会	8 人	84 日	188 人	パークゴルフ場の管理運営

(3) 教育機関との連携

キツネの調査や普及啓発を協働で進めてきた北海道大学大学院教育推進機構と令和7年度に連携協定を締結し、キツネの生息状況調査や、ベイト散布の取り組みの他、「月寒公園ピクニック」等イベントにおける普及啓発、「パークライフカフェ」における対話の場づくりなどを協働で実施した。

また、市立札幌みなみの杜高等支援学校の2年生の実習を9月1日～12日に受け入れ、公園の維持管理作業や貸しボートの運営補助の実習を行った。

(4) とよひらまちづくりパートナー制度の取り組み

地域貢献の意欲をもった企業や団体が、地域のパートナーとしてまちづくり活動に参加する制度「とよひらまちづくりパートナー」に「月寒公園パークライフコンソーシアム」として登録し、美園第9町内会の花植えや夏祭りに協力した。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 8,415,802 円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かし、多様な環境教育事業を企画し、市民団体や近隣教育機関等と協働で実施するとともに、公式ウェブサイトや配架・掲示物によるタイムリーな野鳥等の自然情報を発信し、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。令和3年度に当該公園で出沒が確認され、近年札幌市内でも恒常的に出沒しているヒグマについて、引き続き生態、藻岩山等近隣での出沒情報、注意喚起等の看板を園内各所に設置し、ヒグマへの知識や対策についての普及啓発に努めた。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

市街地に近い立地でありながら、気軽に豊かな自然が楽しめる環境であることから、森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内各所から幅広い方が来園し利活用された。また野鳥や自然をガイドする観察会等の自然に親しむイベントを年間通して開催し、環境教育の場の提供に努めた。野鳥観察会は近年のシマエナガ等の野鳥人気で需要が高まり、また「野鳥の公園」として全国的に広く認知されてきており、定例の観察会のほか、観光・旅行者等の団体を対象にした野鳥ガイドを企画・開催した。年間を通して多くの方に参加していただき、利用促進とともに豊かな自然環境を体験していただく機会の提供に努めた。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校の依頼で、当該公園の歴史や自然環境を調査して新聞として編集する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な公園を通して豊かな自然環境等を学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。

また旭山自然調査隊が主催する自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」の活動が年間を通して行われ、広報や物品の貸出、作業の補助等のサポートを行った。当該公園での生き物観察や旭山都市環境林にある池ではエゾサンショウウオの生態調査・観察等を行った。またオオムラサキの保護活動では、引き続き巨木の谷や森の家近くの法面等でエゾエノキ稚樹の生育管理を行った結果、オオムラサキの幼虫および蝶が確認されるなど、活動の成果が出ている。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは野鳥等の自然情報、施設情報、利用促進・環境教育事業のイベント情報等について197件更新し、閲覧回数は490,756件だった。閲覧回数の昨年度実績比は約106%で毎年増加が続いている。野鳥人気のニーズに沿ったタイムリーな情報発信のほか、サクラと紅葉の時期は写真とともにこまめに開花状況等の発信に努めた。令和6年10月から公式ウェブサイトで募集開始した観光・旅行者向けの野鳥ガイドは、全国から45件（延べ128名）のお申し込みをいただき、道内に限らず、全国的にシマエナガ等の野鳥が多くみられる公園として認知されており、広報活動の成果がうかがえる。

(4) 社会福祉への貢献

レストハウスの運営について、令和3年度から継続して管理運営を委託する福祉団体「特定非営利活動法人手と手」に引き続き委託しており、障がい者の自立に向けたサポートを行った。レストハウスでの売店運営や清掃のほか、テイクアウトメニューの下拵えやオリジナル商品の制作など、間接的な面においても就労機会の創出に貢献した。

2 市民参加・協働等

旭山記念公園市民活動協議会（以下、市民活動協議会）および登録団体の旭山自然調査隊と連携し、近隣小学校との連携事業「旭山ウォーカー」を共催、また旭山自然調査隊の主催行事「森のたんけん隊」等の環境教育事業の活動をサポートすることで、利用促進と環境保全の啓発に努めた。

また令和5年度に発足した公園ボランティア「旭山記念公園ボランティアの会」と協働で活動を行った。公園内の樹木や草花の維持管理、公園内のゴミ拾いや森の家の清掃、指定管理者が主催するイベントの準備等に協力していただいた。また当団体は札幌市森林ボランティアにも登録しており、隣接する旭山都市環境林でも山野草の保全活動などを行った。

■公園ボランティア「旭山記念公園ボランティアの会」の主な活動一覧

旭山記念公園	旭山都市環境林	イベントその他
・ゴミ拾い ・樹名板の作成・更新 ・森の家大掃除	・山野草の保護・保全活動 - 山野草の位置、生育状況の調査、ベニバナイチヤクソウ周辺の落ち葉清掃など ・ゴミ拾い ・枯損枝、枯損木処理	・「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」の準備、会場設営等 ・「スマホ&キースタンド作り」の準備 - 木材の研磨等 ・旭山自然調査隊主催「森のたんけん隊」サポート ・薪の運搬(森の家)

■普及啓発・利用促進イベント及び市民活動協議会等との共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容	共催等
野鳥観察会 (24 回開催)	334 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。	
初心者対象野鳥観察会 (3 回開催)	33 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。野鳥観察初心者を対象に見つけ方や、双眼鏡の使い方などをレクチャー。	
早朝野鳥観察会	13 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。6 時 15 分から開催。	
平日野鳥観察会 (2 回開催)	17 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。平日 9 時から開催。	
夕方野鳥観察会	13 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内の野鳥観察会。16 時から開催。	
観光・旅行者等の団体向け野鳥ガイド	128 名	環境教育・利用促進を目的とした、主に観光・旅行者を対象とした団体向けの野鳥観察会。	
自然観察会 (4 回開催)	47 名	環境教育・利用促進を目的とした、園内および旭山都市環境林で行なう自然観察会。	
ネイチャーカフェ「私選野鳥観察地案内」	17 名	環境教育・利用促進を目的とした、道内の野鳥の観察地を紹介する講習会。	
WONDER FOREST	30 名	環境教育・利用促進を目的とした、野外遊び等を通じた自然体験イベント。	主催：札幌まるやま自然学校 協力：指定管理者等
旭山記念公園フォトコンテスト	15 名	レストハウスおよび公園の利用促進と環境教育を目的としたイベント。旭山で見られる野鳥の写真を公募して、一次審査を通過した作品をパネル展示。その後来館者の投票でグランプリを決定。	共催：NPO 法人手と手
園芸講習会「多肉寄せ植え講座」	10 名	利用促進・園芸を通じた緑化普及を目的とした、観葉植物の寄せ植え観察会。	
旭山ウォーカー	150 名	近隣の緑丘小学校 4 年生の総合学習に協力し、学校での講演、公園での現地学習に協力する。	共催：札幌市立緑丘小学校 協力：市民活動協議会、札幌市中央区土木部
愛犬といっしょの公園散歩講座	11 名	犬の飼養相談や、公園での犬の散歩マナーの普及・啓発を目的とした講座。	共催：札幌市動物愛護管理センター 協力：愛玩動物飼養管理士
薪割り体験会 (2 回開催)	16 名	公園の利用促進及び自然リサイクルについての環境教育を目的とした薪割りを体験。	
バードウォッチャーのための樹木観察会 (2 回開催)	30 名	環境教育・利用促進を目的とした、野鳥と樹木の関わりについてガイドする樹木観察会。	
園芸講習会「観葉植物ミックス寄せ植え」	11 名	利用促進・園芸を通じた緑化普及を目的とした、実ものやキキ科の花などの切り花・枝を使ったアレンジフラワーの講習会。	
旭山森のフェスティバル	80 名	木工クラフトや自然観察ツアー等を通じて、利用促進、環境教育、地域交流を図る。	主催：市民活動協議会 協力：指定管理者
園芸講習会「ナチュラルクリスマスガーランド作り」	10 名	園芸を通じた緑化普及と自然環境への関心につなげることを目的とした、クリスマス飾りを作る講習会。	
クリスマスリース作成体験	5 名	環境教育・利用促進を目的とした、クリスマスリースを作成する	

		体験会。	
スノーシュー自然観察会 (7回開催)	115名	環境教育・利用促進を目的とした、スノーシューを履いて園内および旭山都市環境林を散策し、自然をガイドする観察会。	
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	6名	災害被災者への鎮魂と冬の公園活用について考えるほか、地域とのコミュニケーションや公園の利用促進を目的としたイベント。雪でスノーランタンを作成、キャンドルを設置して点灯。	
スマホ&キースタンド作り	2名	剪定や幼木処理で発生した木材を再利用して緑化普及と自然環境への関心につなげることを目的とする木工クラフト講習会。	
ノルディックウォーク体験	3名	公園の利用促進、健康増進を目的とした、ノルディックウォーク初心者向けの体験会。	
旭山冬のフェスティバル	50名	木工クラフトや缶バッジ作り体験、雪遊び体験を通じて環境教育、地域交流を図るイベント。	主催：市民活動協議会 協力：指定管理者
星空観察会	市民活動協議会スタッフの確保ができなかったため中止。		

その他公園緑地等

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、スポーツジムや陸上クラブの運営を行った。

(1) スポーツジム MUSO の運営

令和5年6月にオープンし、トレーニング愛好者やアスリート、市民が安心してトレーニングを行える施設の営業を続けていたが、収支の黒字化の見込みが立たないため、令和7年9月で施設の営業を終了した。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー（Atsubetsu Athlete Academy）を任意団体「North Sprint Dept.」と連携し運営していたが、MUSO 施設の営業終了とともに運営を終了した。

2 施設等収入

施設収入	3,605,950 円
受講料収入	3,123,000 円

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務を受託する共同体の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。また、厚別公園等の緑地・芝生の維持管理及び大会運営やイベント等の企画・実施に係る業務を適正に実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) ヒグマ対策 園内侵入防止対応、外周柵監視、巡回点検等
- (5) 入園者数 夏期〔4～11月〕 314,320人（国の示す目標値 254,000人の123.7%）
冬期〔12～3月〕 106,815人（国の示す目標値 82,000人の130.3%）

2 利用指導及び利用サービス等

- (1) 利用促進事業
 - ① きのとんメール：春夏秋冬の定期発行4回、さらに夏特別号を加え計5回発行
 - ② HPやSNSを活用し、公園の多様な魅力（季節の花々、野生動物等）を随時発信
 - ③ 札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）の大型壁面広告でチューリップ情報をPR（5/12～25）
 - ④ 夏・秋にInstagram道内インフルエンサーを招聘、各時期の魅力をPR
 - ⑤ 「厚別山水車器械所跡」、「木コンクリート橋・木直川橋」の遺産登録をPR
- (2) ボランティア活動
 - ① フラワーガイドボランティア 登録22名（延べ251名）、活動174日間
グリーンシーズンの活動は、クマの園内侵入もなかったことから、チューリップの開花から秋のコキアに至る予定全期間で来園者へのガイドができた。ガーデンツアーは、引き続き人数をガイド1人に対して5～6人と制限し、ガーデン等の見どころで来園者へのスポット解説を実施した。ボランティアの高齢化に伴い活動回数が少なくなっており、通年募集に切り替えて新規登録者を募集しているが、なかなか集まらず苦慮した。
 - ② 滝野の森クラブ 登録38名（延べ1,291名）、活動176日間
夏季はおさんぽガイドや森あそび、生きもの探しなどのイベントのほか、滝野の歴史の調査や植物調査、標本展示等を開催。また自生種保全や新しい見どころづくりのための森づくり活動なども行った。冬季はスノーシューツアーや雪あそびなどのイベントを実施し山の家主催のイベントにも出展。3月には冬季一般開放していない滝野の森ゾーン西エリアでのスノーシューガイドも実施。また7月と2月は「たきの森フェス」で森見の塔周辺での森あそびコーナーを展開した。
- (3) 主なイベント
 - ① シラネアオイと春の野の花まつり 5月10日～5月18日
 - ② チューリップ・すずらんフェスタ 5月17日～6月1日
 - ③ 滝野アウトドアピクニック 5月17日・18日
 - ④ チューリップ掘り取り体験 6月8日
 - ⑤ たきの森フェス～2025Summer～ 7月6日
 - ⑥ 滝野の森昆虫野外博物館 7月27日～8月17日
 - ⑦ 札幌南マルシェ&たきの秋空コンサート 9月20日・21日
 - ⑧ 滝野ウィンターマラソン2026 1月18日
 - ⑨ 滝野スノーフェスティバル 1月31日・2月1日
 - ⑩ たきの森フェス～2026winter～ 2月22日

3 厚別公園競技場の維持管理を含めた受託について

- (1) 厚別公園競技場緑地等維持管理及び指導・継承業務
一般財団法人札幌市スポーツ協会から受託し、緑地・芝生の維持管理及び業務の指導・継承を同団体の職員に実施した。
- (2) 厚別公園競技場興行イベント等運営サポート補助業務
厚別公園競技場が改修工事のため、令和7年度は実施していない。

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実を図るため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、西岡公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、旭山記念公園、MUSO、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル（スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器）等

(3) 収入金額

70,704,157 円

2 臨時売店の設置運営

売店を常設していない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、創成川公園、中島公園、豊平川緑地、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、モエレ沼公園野球場、川下公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、西岡公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、旭山記念公園、MUSO

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

33,466,659 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、モエレ沼公園野球場、川下公園、豊平公園、平岡公園、清田南公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、西岡公園、西岡中央公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、旭山記念公園、MUSO、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

30,131,625 円

4 その他便益事業

実績無し

評議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

定時評議員会(令和7年6月24日開催)

議 題 報告事項

令和6年度(2024年度)事業報告の件

決議事項

議案第1号 令和6年度(2024年度)決算承認の件

議案第2号 評議員選任の件

議案第3号 理事選任の件

議案第4号 監事選任の件

理 事 会

令和7年度第1回理事会(令和7年6月6日開催)

議 題 報告事項

理事長の職務執行状況報告について

決議事項

議案第1号 令和6年度(2024年度)事業報告承認の件

議案第2号 令和6年度(2024年度)決算承認の件

議案第3号 評議員候補者選任の件

議案第4号 理事候補者選任の件

議案第5号 監事候補者選任の件

議案第6号 定時評議員会招集及び提出議題の件

みなし決議(令和7年6月24日付け)

議案第1号 理事長選定の件

令和7年度第2回理事会(令和8年3月26日開催)

報告事項

理事長の職務執行状況報告

決議事項

議案第1号 運営安定化積立資産取り崩しの件

議案第2号 都市緑化基金引当資産取り崩しの件

議案第3号 令和8年度(2026年度)事業計画書及び収支予算書の承認の件

令和 7 年度事業報告

令和 7 年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。
よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。